



# 学校だより 10月号

横浜市立日吉南小学校

令和4年9月30日

## 出合いが広げる世界

校長 山中 真紀子

運動会の練習も始まり、校庭に吹く風から秋への移り変わりを感じます。9月は日吉南小の子どもたちにとって、いつも以上に様々な人と出合い、様々な体験をすることができた1か月となりました。ボランティアさんによる朝の読み聞かせも始まり、1年生の自分のアサガオの花を使って色水作り、2年生のバイスターズ体育授業、マリノスサッカー食育キャラバン、3年生のはまぎん宇宙科学館遠足、4年生のポッチャ体験、5年生の朝日新聞出前授業、水と緑の教室、6年生のゲストティーチャーによる学習（テレビ朝日、歴史博物館、自衛隊）、歴史博物館見学、個別支援級の北綱島小学校との交流会など。担当学年は、打ち合わせを繰り返したり、何度も下見に行ったりしています。「前期のまとめ、忙しいと言われるこの時期に」と思い聞いてみると「前期のまとめ、前期終了とは大人が言っていること。子どもにとっては学びの途中。終わりでもまとめでもなく、ずっと続いている。学びのタイミングを逃さないことが大切。」とのこと。「前期のまとめをしましょう。」「前期はどうでしたか。」など、つい子どもたちや職員に声を掛けてしまいましたが、もっと長いスパンで見えていくこと、学びに区切りをつけないことも大切なのだと感じました。これらの出合いや経験が、子どもたちにとって広い世界を知るきっかけになっていたら嬉しいです。また、関わってくださった皆さまに感謝いたします。

学習指導要領の改訂により学校での学力や評価のとらえが変わって3年となります。夏休みに行った評価の研修では、評価の仕方、考え方について教職員で共通理解を図るとともに、育成すべき資質・能力の三つの柱について学びを深めました。「理解し、できるようになる」だけでなく、理解したことやできるようになったことを「どう使っていこう」と考えたり試したりすることが大切なのだを再確認しました。また、そこには教師の見取り、声掛け、適切な支援が必要になります。教師の支援のあり方についても、引き続き研修を積んでまいります。

今年度の重点研究テーマは、「主体的に学び、共に高め合う子の育成を目指して～自ら課題発見し、伝え合いながら解決に向かうためのICT機器を活用した指導のあり方～」です。タブレットの活用では、日々の授業でタブレットに触れない日はないというくらい当たり前のように使っています。一斉に同じものを使い学習を進めるスタイルから、高学年では自分に必要なものを選び学習する姿も見られるようになってきました。発達段階による活用スキルの習得方法についてもいろいろな工夫がされています。またEdTech(経済産業省からの実証事業)や無料トライアルの学習支援ソフトを活用し、個別最適な学習への効果的な活用についても検証をはじめたところです。「新しいことにも挑戦していこう、それはきっと子どもたちのためになるから」の信念のもと、前へ進んでいこうとする教職員をたのしく思います。しかしそうできるのも、保護者や地域の皆様のお力添えがあったこと、本当にありがたいです。

10月7日には、一年間の学びの中間、過程としての『あゆみ』を家へ持ち帰ります。担任と子どもが話をする時間を取り、ていねいにあゆみを渡していきます。ご家庭でも成長した部分をたくさん褒め、明日につながる声掛けをしていただけますようお願いいたします。引き続き感染症拡大防止対策を取り教育活動を進めてまいります。保護者の皆様、地域の皆様におかれましても、ご理解とご協力をお願いいたします。

